

かわらばん 瓦版しろいし

発行：(仮称) 白石地区まちづくり協議会設立準備委員会
編集協力：白石市市民経済部まちづくり推進課
特定非営利活動法人 都岐沙羅パートナーズセンター

vol.6
令和7年3月15日発行



白石地区みらいづくり座談会の様子 (R7.2.5)

「白石地区みらいづくり座談会」を開催しました

白石地区のこれからの地域づくりを、幅広い世代が一緒に話しました

令和7年2月5日と26日に、白石地区みらいづくり座談会を開催しました。白石地区の中学生から70代まで、延べ60人を超える方が参加しました。

これまで開催してきた世代別会議(若者会議・次世代会議・熟練世代会議)では、地区の現状と今後必要となることについて意見を出し合いましたが、今回の多世代座談会では、それを一歩深め、「これからの白石地区のために『自分たちで』できることは何か」「誰と協力するとそれが実行できそうか」について、みんなで知恵を絞りました。

世代別会議で知り合った仲間と一緒に意見を出したり、異なる世代のアイデアに感心し合ったり、そもそもこのような座談会をもつ意味に立ち返って確認し合う場面もあったりと、実に活発な話し合いとなりました。

「縮充」の時代。人口や財源をはじめ、様々な規模が「縮」小することが予想される時代にあって、だからこそできる暮らしの「充」実を図る知恵が求められています。これを具体化していくには、自分たちとは異なる世代の挑戦を応援し合うことが大切です。こうした協力し合う関係を構築していくための糸口が見えてきた、とても有意義な座談会となりました。

協議会設立に向けたこれまでの経緯と今後の流れ

(仮称) 白石地区まちづくり協議会設立準備委員会(以下「準備委員会」という。)立上げの経緯からお話します。白石地区においては、各自治会が中心となり地域づくりの活動を進めてきましたが、役員の高齢化、成り手不足等から、自治会単体での地域づくりが困難となる自治会が出てくるのが予測されました。そして、将来的には自治会などの団体と協働関係により地域づくりを推進する組織が必要という考えが多くみられるようになりました。

このような状況を背景に、令和3年度から市の担当課のご指導とご支援をいただき、白石地区へのまちづくり協議会設立に向けた準備を進め、昨年の4月に準備委員会を立ち上げたことは、これまで発刊した瓦版しろいし等でも述べ

てきたところです。

これまで準備活動として、先進的な取り組みをしている団体の視察、多世代対象の研修会や座談会を行い、若い方から熟練世代までの多くの皆様から、将来の白石地区の地域づくりに必要とされる貴重なご意見・アイデアをいただいたところです。

今後の流れですが、これまで皆様から頂いたご意見・アイデアと先進地視察等で得た知識を基に、準備委員会で検討を重ね、まちづくり協議会の組織体制、規約、事業計画等の作成を進め、今年の秋頃を目途に多くの皆様に支持していただけるようなまちづくり協議会の設立を考えています。引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

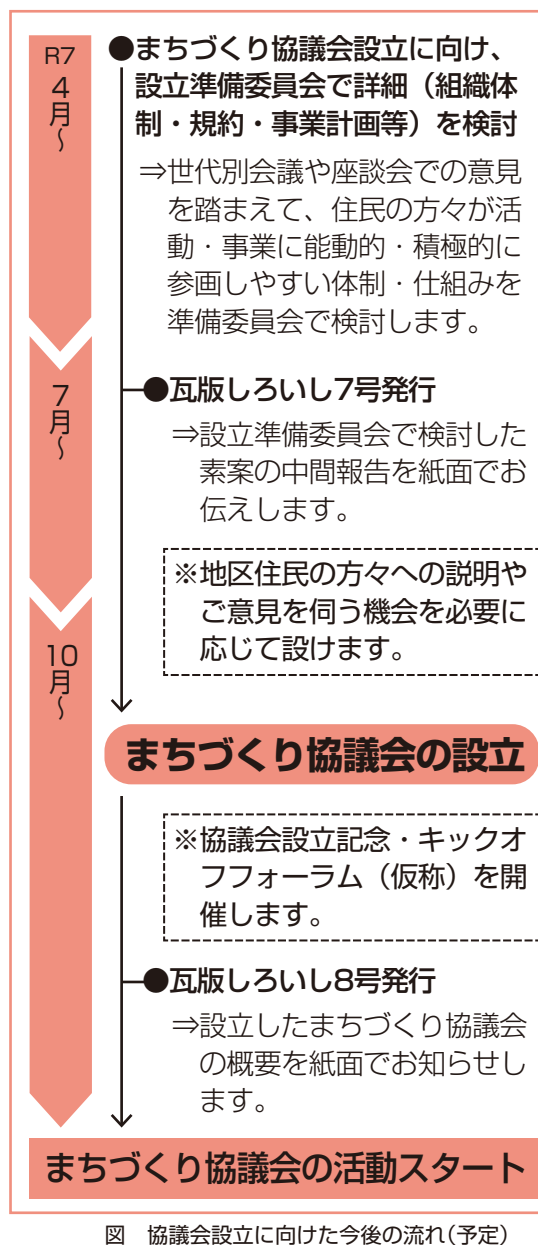


図 協議会設立に向けた今後の流れ(予定)

(仮称)白石地区まちづくり協議会の理念(案)

将来への希望と安心感を高める 自治型コミュニティをつくる

私たちは、地域の困りごとや人・団体の情報を日常的に整理・共有し、自治会や各種団体の協働と新しい発想の活動を生み出します。

<この取り組みへの問い合わせ先>

(仮称)白石地区まちづくり協議会
設立準備委員会 事務局(担当：大橋)

【TEL】080-5218-4205(月曜10:00~12:00)

【メールアドレス】shiroishimachikyo@gmail.com

【編集後記】

少子高齢化や生活環境の変化、個人の価値観の多様化が進む中、地域コミュニティが希薄化してきました。一方、防災・防犯をはじめ、地域の皆さんが連帯しお互いに助け合うことの重要性がますます高まっています。このような中、地域課題の解決に向けて、自治会や各種団体、個人などお互いの理解を深め、協力して地域課題の解決を図ることが、全国的に強く求められています。

2月に開催した「白石地区みらいづくり座談会」には多世代の方々に参加していただきました。特に白石の将来を思う、若者の前向きな発言が目立ちました。

令和3年度から開始した一連の準備段階を経て、今後は本年秋頃の「白石地区まちづくり協議会」設立に向けて最終段階に入ります。

多世代が一緒になってアイデアを出し合った「アイデア会議」

1回目のみらいづくり座談会は、令和7年2月5日に開催しました。雪の降り積もる中、10代から70代の23名の参加がありました。

今回の会議の目的は、事前に行われていた世代別会議で出された意見を共有し、住民が主体となって取り組めそうなアイデアを考え、それをより深めていくことでした。

コーディネーターの斎藤先生から「妄想を膨らましてアイデアを出しましょう」という呼びかけのもと座談会がスタート。今まで思いつかない面白いアイデアが、若者からたくさん出てきました。「草を刈ってほしい人のために草刈り

部を作っては？」「スキルを持っている人に教えてもらいたいね」「練習で草刈りさせてくれる場所はないかな」などなど。こうした意見に触発されて大人からも「ただごみ拾いをするのではなく、集めた量に応じて景品を出しては？」「当たりくじ付きのごみを見つけたらごみ拾い大会はどう？」といった斬新なアイデアも飛び出し、話し合いはとても盛り上がりました。

最後に「すぐにできそう」「面白そう」なアイデアに参加者全員でシールを貼っていく投票も実施。徐々に具体的な取り組みの方向性が見え始めた会となりました。



白石地区みらいづくり座談会【第1回】アイデア会議の様子 (R7.2.5)

アイデア会議で出された主な意見 ～白石地区のみらいを自分たちの手でつくるためのアイデア～

- 草刈り等の環境整備チームを編成する
- 楽しみながら参加できるゴミ拾い大会を開催する
- 空き家等を活用した居心地のよいコミュニティスペースをつくる
- 白石地区のイベントカレンダーを作成・配付する
- やりたいを応援する仕組みをつくり、日常的にまちづくりに関わるチームを編成する
- 地区イベントの企画・進行を10代に任せる
- 地区の今と昔を知る機会をつくる
- 老若男女がまちづくりを語り合う場を定期的に設ける
- 子ども・若者の育成を切り口にして各種組織を見直す などなど

アイデアの実現に向けてより踏み込んで議論した「企画実現会議」

2回目のみらいづくり座談会は、「企画実現会議」と銘打ち、令和7年2月26日に開催しました。前回座談会でシール投票の数が多かったアイデアについて、自分たちで始められそうな取り組みの具体的な内容と実施に向けたチーム編成を話し合いました。

次世代・熟練世代からは、地区の草刈りや投棄ゴミ・空き家の問題など暮らしの維持に関する取り組みについての意見が多く出された一方で、若者世代からは商店街を使ったマルシェ、動画サイトを利用した魅力発信など、楽しみながら地区民がつながる提案が出されました。多世代で語り合うと、これらが自然とつながりあ

い、楽しみながら暮らしの課題を解決する知恵が次々に飛び出しました。特に印象的だったのは、熟練世代が「昔は駅前や旧六町にも七夕祭りがあつて、賑やかでみんな楽しみにしていた」と自分が若かった頃の地区の姿を輝かせながら語る姿。若者もこの話には興味津々で、古地図を見ながら地区の歴史を語り合う企画も新たに生まれました。

アイデアの実現にあたって重要なのは、「どんな人たちとコラボすると実現できそうか」を先に考えること。座談会では具体的な団体・企業名なども飛び交い、妄想が現実的な企画に変わっていく予感のする会となりました。



白石地区みらいづくり座談会【第2回】企画実現会議の様子 (R7.2.26)

アイデアの重ねあわせ+どんな人・団体に参加・参画してもらおうかについて出てきた主な意見

- 草刈りに何かを掛け合わせ（例：生き物観察会／ポイント制にしてお礼／家庭用菜園の堆肥化）、高校生・大学生にも参加してもらう
- ゴミ拾いが楽しくなるような仕掛けをして、塾やスポーツ団体、学校の部活動も参加してもらうイベントにする
- イベントカレンダーは、全地区の祭りや共同作業などを掲載するとともに、掲載する写真も工夫しているいろいろな人に関わってもらう（コンテストの開催／昔の写真を載せる等）
- 昔の地図を見ながらゴミ拾いをすると、子どもから大人までが参加し、歴史を学びながら街をきれいにできる などなど

若者会議の開催後、若者たちがこんな取り組みをはじめました

令和6年11月25日、29日に開催された若者会議の中で、中学生から「もっといろいろな世代と話して、つながりを持ちたい！」という意見が出されました。そうしたところ、若者会議に参加していた大学生、20代の社会人がこの意見に賛同し、「中学生の求めている場所を自分たちで作ろう」ということになり、なんと若者独自の取り組みが始まりました。

まずは若者たちだけの居場所をつくろう！ということで、日時と場所を決め、気ままに集まり、みんなでゲームをしたり、勉強をしたりする「大雑談会」と銘打った取り組みが始まりました。これまでに2回実施されており、おしゃべりできる場所が学校以外にあることは、中学生にとつて、かなり新鮮だったようです。



若者会議から生まれた若者たちの自主企画「大雑談会」の様子



一方で、高校生が自分の時間を地域活動にしたいと思える場をどうやってつくるか？というテーマで思案している若者もいます。現在、そのための取り組み準備も進行しています。

若者会議がきっかけとなり、若者の参加が着実に増え始めました。若者会議に参加した中学生は、友だちを誘ってみらいづくり座談会に参加し、大人に交じって積極的に意見交換をしています。大雑談会の中心メンバーである大学生や20代の社会人、実際に地域活動に積極的に参加している高校生も、座談会に参加して大人顔負けの発言をしています。こうした姿を見ていると、本当に頼もしい限りです。座談会のような場を設けていくことが、これからの地域を担う人材の発掘につながっていくことを、あらためて実感しています。



みらいづくり座談会のこのチラシ、実は若者会議に参加した若者がデザインしたものです！